

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	京都文教短期大学
設置者名	学校法人 京都文教学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	ライフデザイン学科	夜・通信	5	0	23	28	7	
	食物栄養学科	夜・通信			23	28	7	
	幼児教育学科	夜・通信			24	29	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://docs.google.com/document/d/1lwSEv9I5tuERIx0Rqnr5_f_bAeduqBm7un4db0-GxA/edit?usp=sharing">https://docs.google.com/document/d/1lwSEv9I5tuERIx0Rqnr5_f_bAeduqBm7un4db0-GxA/edit?usp=sharing</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	京都文教短期大学
設置者名	学校法人 京都文教学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[https://www.kbu.ac.jp/pub\\_info/univ/pdf/4-2.pdf](https://www.kbu.ac.jp/pub_info/univ/pdf/4-2.pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(株)辻栄 代表取締役	2019.6.1 ~ 2023.5.31	調整
非常勤	全日本パトロール警備保障(株) 代表取締役社長	2019.6.1 ~ 2023.5.31	調整
非常勤	伊藤屋グループ CEO 兼伊藤屋株式会社 代表取締役社長	2019.6.1 ~ 2023.5.31	調整
非常勤	西村法律事務所	2019.6.1 ~ 2023.5.31	コンプライアンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	京都文教短期大学
設置者名	学校法人 京都文教学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスがより実質的に機能するよう、教務委員会・FD委員会が中心となり、シラバス作成方法に関するFD研修会を実施し、記載項目と記載水準の共通理解を図っている。</p> <p>併せてシラバスチェックリストを作成し、授業内容がよりわかりやすく学生に伝わるものとなるよう、担当者によるセルフチェック及び第三者によるシラバスチェックを実施している。</p> <p>なお、作成したシラバスは学生・教職員向け Web ポータルサイト「ユニバーサルパスポート」により毎年3月末頃に公表している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>シラバス</p> <p><a href="https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kyotobunkyoosyllabus/">https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kyotobunkyoosyllabus/</a></p> <p>シラバス作成ガイドライン</p> <p><a href="https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kyotobunkyoosyllabus/guideline">https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kyotobunkyoosyllabus/guideline</a></p> <p>*カレッジライフ 2019 年度抜粋 PDF</p> <p><a href="https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kb-risyu-cl-curriculum/KBJC">https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kb-risyu-cl-curriculum/KBJC</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバス上に、学習成果に対応した成績評価基準を「学習評価の方法(評価比率)」として記載している。また教員は、学期途中には小テスト、課題やレポート、受講態度により、学期末には、これらに定期試験の結果を加えて、学習成果を適切に把握している。</p> <p>各科目のシラバスに示す「学習評価の方法」の評価比率により総合的に評価し、100点法を持って採点する。90点以上を「秀」、80点以上90点未満を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」と定めている。</p> <p>なお、定期試験を受けるにあたっては、授業回数の1/3以上をこえて欠席した者は試験を受けることができないと学則に定め、運用上「受験資格なし」としている。</p> <p>各学生には Web ポータルサイト「ユニバーサルパスポート」及び成績通知書により通知している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

修得した科目の単位と評価をもとに、通算のGPAを算出し、各学生にWebポータルサイト「ユニバーサルパスポート」及び成績通知書により通知している。

なお、単位修得状況及び成績の分布状況については、学科毎にホームページにて公表している。

履修登録した全ての授業科目について、次に定めるグレードポイント(GP)に基づき1単位当たりの成績の平均値(GPA)を算出する。

$$GPA = \frac{\text{(各授業科目の単位数} \times \text{各授業科目のGP) の和}}{\text{(履修登録した各授業科目の単位数) の和}}$$

成績	GP
秀 (90~100点)	4
優 (80~89点)	3
良 (70~79点)	2
可 (60~69点)	1
不可 (59点以下)	0
受験資格なし	0

※学則で定める学習の評価のうち、「不可」評価についてはその内容により、「不可」または「受験資格無し」に分け、よりわかりやすく表現している。

客観的な指標の算出方法の公表方法

GPA 算定基準 カレッジライフ 2019 年度版 P12  
<https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kb-risyu-cl-curriculum/KBJC>  
 GPA 値  
[https://www.kbu.ac.jp/pub\\_info/pdf/short/2-7-3.pdf](https://www.kbu.ac.jp/pub_info/pdf/short/2-7-3.pdf)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

短期大学及び学科ごとに卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を定め、Webページ及びカレッジライフ冊子内で公表している。

卒業に必要な修得単位は、カレッジライフ冊子内の「卒業の要件」「各学科カリキュラム表」にて公表・説明している。

本学に2年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

**【短期大学士課程 学位授与の方針】**

京都文教短期大学の学位授与に関する方針は、次の通りである。

- DP1 社会人に求められる教養と専門分野において必要な知識を確実に身につけている。〔知識・理解〕
- DP2 専門的な技術を確実に修得し、コミュニケーション能力を身につけて、これらを活用することができる。〔技術・表現〕
- DP3 身につけた知識や技術を活用しながら判断して、表現することができる。〔判断・表現〕
- DP4 他者と協力し、主体的にさまざまな問題解決に取り組むことができる。〔意欲・態度〕

**【ライフデザイン学科 学位授与の方針】**

京都文教短期大学の学位授与の方針を前提として、本学科では卒業時に学生が身につけておくべき 6 つの能力を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学し、所定の単位の修得をもって教育目標（教育研究及び人材育成の目的）を達成したものとみなし、短期大学士（家政学）の学位を授与する。

- DP1 生活に必要な知識と企業や社会で求められる知識を身につけている  
〔知識・理解〕
- DP2 生活に必要な技術と企業や社会で求められる技術を身につけている  
〔技術・表現〕
- DP3 身につけた知識や技術を活用し、表現することができる〔判断・表現〕
- DP4 他者と協力し、主体的にさまざまな問題解決に取り組むことができる  
〔意欲・態度〕
- DP5 生活を健全で豊かにする方法を実践的に取り組むことができる  
〔意欲・態度〕
- DP6 独創性のある発想ができ、それを実現するための計画を立て、行動することができる〔意欲・態度〕

**【食物栄養学科 学位授与の方針】**

京都文教短期大学の学位授与の方針を前提として、本学科では卒業時に学生が身につけておくべき 4 つの能力を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学し、所定の単位の修得をもって教育目標（教育研究及び人材育成の目的）を達成したものとみなし、短期大学士（家政学）の学位を授与する。

- DP1 食と健康に関して幅広い知識を身につけている。〔知識・理解〕
- DP2 健康で安全な食生活を実現するための技能を身につけている。〔技能・表現〕
- DP3 身につけた知識や技能を活用し、表現することができる。〔判断・表現〕
- DP4 他者と協力し、主体的にさまざまな問題解決に取り組むことができる。  
〔意欲・態度〕

**【幼児教育学科 学位授与の方針】**

京都文教短期大学の学位授与の方針を前提として、本学科では卒業時に学生が身につけておくべき 4 つの能力を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学し、所定の単位の修得をもって教育

	<p>目標（教育研究及び人材育成の目的）を達成したものとみなし、短期大学士（幼児教育学）の学位を授与する。</p> <p>DP1 保育に関して幅広い知識を身につけている。〔知識・理解〕</p> <p>DP2 保育に必要な技術を身につけている。〔技術・表現〕</p> <p>DP3 身につけた知識や技術を活用し、表現することができる。〔判断・表現〕</p> <p>DP4 他者と協力し、主体的にさまざまな問題解決に取り組むことができる。 〔意欲・態度〕</p>
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>学位授与の方針  <a href="https://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html">https://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html</a>            カレッジライフ 2019 年度版抜粋  <a href="https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kb-risyu-cl-curriculum/KBJC">https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kb-risyu-cl-curriculum/KBJC</a></p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	京都文教短期大学
設置者名	学校法人 京都文教学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.kbu.ac.jp/work_report/pdf/h30/05/05_04.pdf">https://www.kbu.ac.jp/work_report/pdf/h30/05/05_04.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.kbu.ac.jp/work_report/pdf/h30/05/05_03.pdf">https://www.kbu.ac.jp/work_report/pdf/h30/05/05_03.pdf</a>
財産目録	<a href="https://www.kbu.ac.jp/work_report/pdf/h30/05/05_05.pdf">https://www.kbu.ac.jp/work_report/pdf/h30/05/05_05.pdf</a>
事業報告書	<a href="https://www.kbu.ac.jp/work_report/index.html">https://www.kbu.ac.jp/work_report/index.html</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.kbu.ac.jp/work_report/pdf/h30/audit01.pdf">https://www.kbu.ac.jp/work_report/pdf/h30/audit01.pdf</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画)	対象年度:H31)
公表方法: <a href="https://www.kbu.ac.jp/work_report/pdf/h30/02/02_01.pdf">https://www.kbu.ac.jp/work_report/pdf/h30/02/02_01.pdf</a>	
中長期計画(名称:学園中長期経営改善計画対象)	対象年度:H30~H34)
公表方法: <a href="https://www.kbu.ac.jp/work_report/pdf/h28/improvement.pdf">https://www.kbu.ac.jp/work_report/pdf/h28/improvement.pdf</a>	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.kbu.ac.jp/pub_info/short/short.html">https://www.kbu.ac.jp/pub_info/short/short.html</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.kbu.ac.jp/kbjc/news/pdf/jaca2013_result.pdf">https://www.kbu.ac.jp/kbjc/news/pdf/jaca2013_result.pdf</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 ライフデザイン学科
教育研究上の目的（公表方法： <a href="http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html">http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html</a> ）
<p>（概要）</p> <p>ライフデザイン学科では、生活の様々な要因を人と環境に関する観点から総合的に捉え、積極的・主体的に行動する態度と健全で豊かな生活を構築するための知識と技術を修得し、問題発見力・問題解決力・社会人基礎力・情報活用力を身につけて、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html">http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html</a> ）
<p>（概要）</p> <p>京都文教短期大学の学位授与の方針を前提として、本学科では卒業時に学生が身につけておくべき6つの能力を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学し、所定の単位の修得をもって教育目標（教育研究及び人材育成の目的）を達成したものとみなし、短期大学士（家政学）の学位を授与する。</p> <p>DP1 生活に必要な知識と企業や社会で求められる知識を身につけている [知識・理解]          DP2 生活に必要な技術と企業や社会で求められる技術を身につけている [技術・表現]          DP3 身につけた知識や技術を活用し、表現することができる [判断・表現]          DP4 他者と協力し、主体的にさまざまな問題解決に取り組むことができる [意欲・態度]          DP5 生活を健全で豊かにする方法を実践的に取り組むことができる [意欲・態度]          DP6 独創性のある発想ができ、それを実現するための計画を立て、行動することができる [意欲・態度]</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html">http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html</a> ）
<p>（概要）</p> <p>本学科では、「学位授与の方針」に定めた能力を身につけるために、総合教養科目（共通科目）と専門科目を基盤とした教育課程を設ける。教育課程は、各授業科目を卒業必修科目と選択科目に分け、これを各年次に配当し、講義、演習、実技の適切な方法により実施する。</p> <p>【学科専門科目】</p> <p>職業現場における様々な諸問題に取り組むことのできる能力を身につけた人材を育成するための科目を学科専門科目として開講し、社会と生活に関わる基礎的な知識を身につける講義、専門的な技術を習得する演習・実技、さらに総合的な能力を駆使して課題に取り組み、探求する研究ゼミナールを置く。</p>
入学者の受入れに関する方針（公表方法： <a href="http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html">http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html</a> ）
<p>（概要）</p> <p>京都文教短期大学は、高等学校教育で習得した基礎学力の上に、豊かな教養と専門教育を実施し、謙虚にして、誠実で、親切な人格の形成に努め、健全にして有能な人材並びに良き社会人を育成することを目標としています。本学ではこの目標の実現に向けて、次のような人の入学を期待しています。</p> <p>1.短期大学での学習に必要な一定水準の基礎学力を身につけている人</p>



- 2. 本学の建学の精神、教育方針に共感し、意欲的に学ぶ姿勢のある人
- 3. 社会人並びに専門職業人として社会に貢献できる人

ライフデザイン学科では、生活者として必要な能力と社会人基礎力を修得し、幅広い分野の学習により専門性と人間力を養い、社会から信頼される人材を育成します。ライフデザイン学科では次のような人を求めています。

- 1. 社会人基礎力やビジネスマナーを身につけ、即戦力として社会に貢献したい人
- 2. 健全で豊かな生活を目指し社会人として自立しようとする目的意識を持っている人

例えば、高等学校などで以下のような学習経験のある人の入学を期待しています。

- ・ 家庭科や美術で作品づくりや調理を経験している人
- ・ 情報などでコンピューターを活用した学習を経験している人
- ・ 公民などで社会の仕組みについて広く学習している人
- ・ 国語で適切に話したり書いたりする学習をしている人

学部等名 食物栄養学科

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html>）

（概要）

食物栄養学科では、食と健康に関する専門的な知識と技能を修得し、望ましい食生活を実践して、提案する力を身につける。社会人基礎力として特にコミュニケーション力、問題発見・解決力を涵養し、協働性を高め、人々の豊かで健康的な食生活を支援することを通して、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html>）

（概要）

京都文教短期大学の学位授与の方針を前提として、本学科では卒業時に学生が身につけておくべき4つの能力を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学し、所定の単位の修得をもって教育目標（教育研究及び人材育成の目的）を達成したものとみなし、短期大学士（家政学）の学位を授与する。

DP1 食と健康に関して幅広い知識を身につけている。〔知識・理解〕

DP2 健康で安全な食生活を実現するための技能を身につけている。〔技能・表現〕

DP3 身につけた知識や技能を活用し、表現することができる。〔判断・表現〕

DP4 他者と協力し、主体的にさまざまな問題解決に取り組むことができる。〔意欲・態度〕

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html>）

（概要）

本学科では、「学位授与の方針」に定めた能力を身につけるために、総合教養科目（共通科目）と専門科目を基盤とした教育課程を設ける。教育課程は、各授業科目を卒業必修科目と選択科目に分け、これを各年次に配当し、講義、演習、実験の適切な方法により実施する。

【学科専門科目】

職業現場における様々な諸問題に取り組むことのできる能力を身につけた人材を育成するための科目を学科専門科目として開講し、食と健康に関わる基礎的な知識を身につける講義、専門的な技能を習得する演習・実験、さらに総合的な能力を駆使して課題に取り組み、探求する卒業研究を置く。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：  <a href="http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html">http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html</a>）</p>
<p>（概要）</p> <p>京都文教短期大学は、高等学校教育で習得した基礎学力の上に、豊かな教養と専門教育を実施し、謙虚にして、誠実で、親切な人格の形成に努め、健全にして有能な人材並びに良き社会人を育成することを目標としています。本学ではこの目標の実現に向けて、次のような人の入学を期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.短期大学での学習に必要な一定水準の基礎学力を身につけている人</li> <li>2.本学の建学の精神、教育方針に共感し、意欲的に学ぶ姿勢のある人</li> <li>3.社会人並びに専門職業人として社会に貢献できる人</li> </ol> <p>食物栄養学科では、食と健康に関する知識と技能を総合的に学び、確かな専門性と人間性を備え、社会から信頼される人材を育成します。食物栄養学科では、次のような人を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.食と健康に関心を持ち、知識と技能を身につけたい人</li> <li>2.望ましい食生活を実践する力を身につけたい人</li> <li>3.栄養士など食の専門家として社会に貢献しようとする明確な目的意識を持っている人</li> </ol> <p>例えば、高等学校などで以下のような学習経験のある人の入学を期待しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間で、問題解決型学習を経験している人</li> <li>・学校行事や部活動などの課外活動で、目標を設定し積極的に取り組んだ経験をしている人</li> <li>・進路を考える時間で、食に関する職業として栄養士などを調べたことがある人</li> <li>・家庭科の授業などで、自分や家族の健康的な食生活について調べた経験がある人</li> <li>・家庭科の授業などで、グループで食事づくりをおこなった経験がある人</li> </ul>

<p>学部等名 幼児教育学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html">http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html</a>）</p>
<p>（概要）</p> <p>幼児教育学科では、保育に関する専門的な知識と技術を修得し、柔軟な思考力と表現力、子どもを理解する力を養う。変化し続ける社会に興味・関心をもち、状況を的確に見極める判断力と適切な態度を身につける。子ども・大人の別なく他者とコミュニケーションをとり、自らを振り返りながら主体的・意欲的に社会に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：  <a href="http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html">http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html</a>）</p>
<p>（概要）</p> <p>京都文教短期大学の学位授与の方針を前提として、本学科では卒業時に学生が身につけておくべき4つの能力を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学し、所定の単位の修得をもって教育目標（教育研究及び人材育成の目的）を達成したものとみなし、短期大学士（幼児教育学）の学位を授与する。</p> <p>DP1 保育に関して幅広い知識を身につけている。〔知識・理解〕</p> <p>DP2 保育に必要な技術を身につけている。〔技術・表現〕</p> <p>DP3 身につけた知識や技術を活用し、表現することができる。〔判断・表現〕</p> <p>DP4 他者と協力し、主体的にさまざまな問題解決に取り組むことができる。〔意欲・態度〕</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：  <a href="http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html">http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html</a>）</p>

<p>(概要)</p> <p>本学科では、「学位授与の方針」に定めた能力を身につけるために、総合教養科目（共通科目）、専門科目を基盤とした教育課程を設ける。教育課程は、各授業科目を卒業必修科目と選択科目に分け、これを各年次に配当し、講義、演習、実技の適切な方法により実施する。</p> <p>【学科専門科目】</p> <p>保育現場における様々な問題に取り組むことのできる人材を育成する。そのための科目を学科専門科目として開講する。保育に関する基礎的な知識を身につける講義、専門的な技術や表現方法を身につける演習・実技、さらに知識や技術を総合的に活かして課題を探究する保育ゼミを置く。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：  <a href="http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html">http://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>京都文教短期大学は、高等学校教育で習得した基礎学力の上に、豊かな教養と専門教育を実施し、謙虚にして、誠実で、親切な人格の形成に努め、健全にして有能な人材並びに良き社会人を育成することを目標としている。本学ではこの目標の実現に向けて、次のような人の入学を期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.短期大学での学習に必要な一定水準の基礎学力を身につけている人</li> <li>2.本学の建学の精神、教育方針に共感し、意欲的に学ぶ姿勢のある人</li> <li>3.社会人並びに専門職業人として社会に貢献できる人</li> </ol> <p>幼児教育学科は、乳幼児の保育と教育に関する知識や技術を総合的に学び、子どもの育ちに寄り添う幅広い専門性と人間力を備えた、社会に貢献できる人材を育成します。幼児教育学科では、次のような人を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.幼稚園教諭や保育士として社会に貢献することを目指し、主体的に学びつづける意欲を持つ人</li> <li>2.子ども・大人の別なく他者とコミュニケーションをとることができる人</li> <li>3.変化し続ける社会に興味・関心をもち、感性豊かに自然や環境を感じ取れる人</li> <li>4.音楽や造形、体育を楽しみ、保育実践に活かせる技術として高める努力をおしまない人</li> </ol>

## ②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.kbu.ac.jp/kbjc/department/index.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1人	－					1人
ライフデザイン学科	－	3人	1人	2人	0人	0人	6人
食物栄養学科	－	2人	6人	0人	0人	0人	8人
幼児教育学科	－	8人	5人	6人	0人	0人	19人
b.教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
1人			72人				73人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： <a href="http://www.kbu.ac.jp/pub_info/short/short2_1.html">http://www.kbu.ac.jp/pub_info/short/short2_1.html</a>					
c.FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<a href="https://www.kbu.ac.jp/pub_info/pdf/short/2-8-1.pdf">https://www.kbu.ac.jp/pub_info/pdf/short/2-8-1.pdf</a>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
ライフデザイン学科	80人	78人	97.5%	160人	160人	100.0%	人	人
食物栄養学科	100人	76人	76.0%	200人	160人	80.0%	人	人
幼児教育学科	150人	158人	105.3%	390人	325人	83.3%	人	人
合計	330人	312人	94.5%	750人	645人	86.0%	人	人
(備考) 幼児教育学科については2019年度から入学定員150人、2018年度は240人。								

b.卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
ライフデザイン学科	89人 (100%)	3人 (3.4%)	78人 (87.6%)	8人 (9.0%)
食物栄養学科	95人 (100%)	2人 (2.1%)	84人 (88.4%)	9人 (9.5%)
幼児教育学科	242人 (100%)	7人 (2.9%)	222人 (91.7%)	13人 (5.4%)
合計	426人 (100%)	12人 (2.8%)	384人 (90.1%)	30人 (7.0%)

<p>(主な進学先・就職先) (任意記載事項)</p> <p>主な進学先：大阪モード学園、京都調理専門学校、 主な編入先：佛教大学 主な就職先：イオンリテール(株)、(株)京都銀行、(株)井筒八つ橋本舗、(株)LEOC、富士産業、(株)京セラ(株)オンワード樫山、(社福)愛光福祉会、くずはローズ幼稚園、栗東市、大津市</p> <p>(備考)</p>
---

c.修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
ライフデザイン学科	92人 (100%)	89人 (96.7%)	0人 (0%)	2人 (2.2%)	1人 (1.1%)
食物栄養学科	100人 (100%)	95人 (95.0%)	2人 (2.0%)	3人 (3.0%)	0人 (0%)
幼児教育学科	246人 (100%)	240人 (97.6%)	0人 (0%)	6人 (2.4%)	0人 (0%)
合計	438人 (100%)	424人 (96.8%)	2人 (0.5%)	11人 (2.5%)	1人 (0.2%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバス  <a href="https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kyotobunkyo-syllabus/">https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kyotobunkyo-syllabus/</a>  シラバス作成ガイドライン  <a href="https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kyotobunkyo-syllabus/guideline">https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kyotobunkyo-syllabus/guideline</a>  カレッジライフ 2019年度抜粋PDF  <a href="https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kb-risyu-cl-curriculum/KBJC">https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kb-risyu-cl-curriculum/KBJC</a></p>
---

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>卒業に必要な修得単位は、カレッジライフ冊子内の「卒業の要件」「各学科カリキュラム表」にて公表・説明している。</p> <p>学位授与の方針 <a href="https://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html">https://www.kbu.ac.jp/kbjc/daigaku/policy.html</a>  カレッジライフ 2019年度版抜粋  <a href="https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kb-risyu-cl-curriculum/KBJC">https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kb-risyu-cl-curriculum/KBJC</a></p>				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	ライフデザイン学科	62単位	有	1学期あたり24単位 (年間48単位)
	食物栄養学科	62単位	有	1学期あたり24単位 (年間48単位)
	幼児教育学科	62単位	有	1学期あたり24単位 (年間48単位)
GPAの活用状況（任意記載事項）		<p>公表方法：  カレッジライフ 2019年度抜粋PDF  <a href="https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kb-risyu-cl-curriculum/KBJC">https://sites.google.com/po.kbu.ac.jp/kb-risyu-cl-curriculum/KBJC</a></p>		

学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法: 免許・資格取得等状況 <a href="https://www.kbu.ac.jp/pub_info/pdf/short/2-2-6.pdf">https://www.kbu.ac.jp/pub_info/pdf/short/2-2-6.pdf</a>
	学習行動・学習時間 <a href="https://www.kbu.ac.jp/pub_info/pdf/short/2-7-1.pdf">https://www.kbu.ac.jp/pub_info/pdf/short/2-7-1.pdf</a>
	学修成果 <a href="https://www.kbu.ac.jp/pub_info/pdf/short/2-7-3.pdf">https://www.kbu.ac.jp/pub_info/pdf/short/2-7-3.pdf</a>
	「育成する力」の達成度 <a href="https://www.kbu.ac.jp/pub_info/pdf/short/2-7-4.pdf">https://www.kbu.ac.jp/pub_info/pdf/short/2-7-4.pdf</a>
	学習に対する意欲・成長実感・満足度 <a href="https://www.kbu.ac.jp/pub_info/pdf/short/2-7-5.pdf">https://www.kbu.ac.jp/pub_info/pdf/short/2-7-5.pdf</a>

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<http://www.kbu.ac.jp/kbic/daigaku/map.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	ライフデザイン 学科	740,000 円	200,000 円	390,000 円	教育充実費
	食物栄養学科	740,000 円	200,000 円	403,800 円	教育充実費,実習材料費
	幼児教育学科	740,000 円	200,000 円	390,000 円	教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p><b>a.学生の修学に係る支援に関する取組</b></p> <p>(概要)</p> <p>大学生活における学生への日常サポート体制としては、学科教員によるアドバイザー制度があり、学生の出欠の把握したうえで、授業や資格取得、学生生活に至る様々な相談に応じている。特に1年次生に対しては大学生活に慣れてもらうため、入学時オリエンテーションや、「初年次セミナー」で大学の授業の履修方法や学習方法などに関する導入教育を行い、専門科目を学ぶための基礎を修得する。2年次生では、「演習」(ゼミ)担当者がアドバイザーとなり、学業面や就職活動等、学生個々の状況をくみ取り、サポートを行っている。</p> <p>(学内連携によるサポート)</p> <p>学生たちの学生生活全般に関するサポートを以下の部署で行っている。また、状況に応じて学内連携をとりながら問題解決を進めていく。</p> <p>○学生相談室      ○健康管理センター      ○障害学生支援室      ○学生課</p> <p>就学上の問題や奨学金などの相談・受付事務を行っている。また、学生の課外活動のためのアドバイス、援助を行う。保護者からの相談窓口も担当している。</p>
<p><b>b.進路選択に係る支援に関する取組</b></p> <p>(概要)</p> <p>進路支援の効果的に推進に向けて、各学科に所属する教員と就職進路課員による就職委員会を定期的に開催し、教員と就職進路課が有機的な連携をはかることで学生への具体的な支援に取り組んでいる。</p> <p>また就職進路課では進路選択を支援するガイダンスとして、1回生9月より3月まで進路ガイダンスⅠ～Ⅲを実施すると共に、一般企業(栄養士を含む)等の就職希望者対象には1回生2月に就活集中ガイダンス(就職ガイダンスⅠ～Ⅲ(OG懇談会を含む))を終日実施し、希望者には「面接試験対策講座」を受講する機会を設けている。</p> <p>幼稚園、保育所、こども園等希望者対象には1回生1月より7月までに「幼保就職ガイダンスⅠ～Ⅲ」を実施し、9月からスタートする就職活動に備えている。</p> <p>公務員希望者対象者(幼保)については幼児教育学科と開講時期について検討し、学生の要望に添うよう1回生7月に公務員ガイダンス、9月に公務員試験対策講座を開講する他、随時、個人面談を通じて学生との接点を可能な限り持ち、企業、幼稚園、保育園等が求める人材へのモチベーションを高めると共に、社会人基礎力の一つである言葉遣いや礼儀等についても指導している。</p>
<p><b>c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</b></p> <p>(概要)</p> <p>○健康管理センターを中心に学生の健康状態を把握し、必要なサポートが行えるよう、学内連携(学科、各部署)による身体面や心理面でのサポートや集団感染予防と感染拡大予防に取り組んでいる。</p> <p>○学生相談室では、心理的困難を抱えた学生を支援していくため、相談員の相談能力の向上及び相談の質の担保に必要な対応として相談室内でのインテーク会議やカンファレンスを充実させている。</p> <p>○障がい学生支援については、サポートを求める当事者とともに配慮内容を決定することができるよう、障害学生支援委員会・学生課(障がい学生支援室)がハブとなり学科・他部署と連携した支援体制を構築している。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：<a href="https://www.kbu.ac.jp/pub_info/short/short.html">https://www.kbu.ac.jp/pub_info/short/short.html</a></p>
---